

⑩組織をあげて要援護者の支援に取り組む

豊野町自主防災会（春日部市）

団体概要

設立年度：平成7年度
世帯数：463世帯
（平成23年4月現在）



▲自主防災組織が活動している自治会館

地域の状況

地理的状況：平野部

本市域は、県北西部の大宮台地、東部の下総台地に挟まれるように中川低地が広がっており、大落古利根川、古隅田川、中川、江戸川などの河川が流れている。

地域の概況 本市は、平成17年10月1日に旧春日部市と旧庄和町の合併により誕生した市ですが、都心への通勤圏であるにもかかわらず、美しい景観と自然環境に恵まれています。

過去の災害：地震：平成23年3月11日 東北地方太平洋沖地震 半壊家屋3棟

風水害：平成20年8月28日 8月末集中豪雨 床上浸水74棟、床下浸水1,244棟

○組織結成の経緯

（結成までの経緯）

旧春日部市では昭和54年から自主防災組織の育成に努めており、豊野町自主防災会も平成7年度に組織化されて以降、防災活動に取り組んでいる。

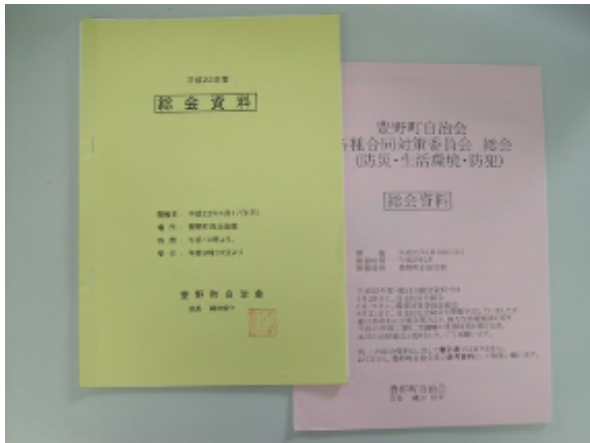
○特徴的な取り組み内容

●災害時要援護者避難支援制度への取り組み

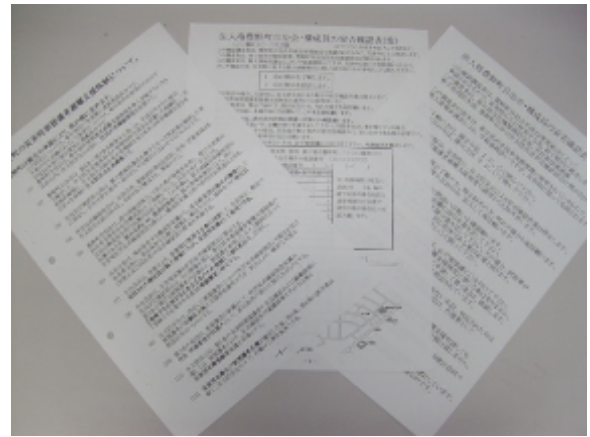
春日部市では、平成23年3月から「災害時要援護者避難支援制度」を導入したところであり、平成23年度は豊野町自主防災会を含む13自治会で取り組んでいくとともに、制度の検証を行ったのち、導入地域を拡大していく予定である。

本制度における自主防災会（自治会）の役割は、市から提供された名簿に登載されている要援護者の避難活動を支援するものであるが、豊野町自主防災会では要援護者のリストアップから本制度に取り組むこととしている。

具体的には、組織内に「住宅安否確認部会」（部会員8名）を設置し、会員名簿（世帯構成人員も把握）により要援護者をリストアップし、本人の意向を確認したうえで市に届け出るというものである。



▲ 総会資料



▲ 災害時要援護者検討資料

○組織の形態

会長 — 副会長(2名) — 組長(4組) — ブロック長(9ブロック) — 班長 (37班)

○活動の成果や問題点など

【取り組みにあたって】

要援護者のリストアップは、組織内に会長1名、副会長4名、民生・児童委員2名及び消防分団長1名から構成される「住宅安否確認部会」で行うものとし、個人情報を取り扱うことから部会員からは個人情報を守秘する旨の誓約書を提出させる。

【現在までの取り組み状況】

豊野町自主防災会としての取り組みについて、総会に諮り会員の同意を得たところであり、現在は会員名簿に記載されている世帯構成の再確認のための調査を行っているところである。(郵送による調査)

【今後の取り組み予定】

「住宅安否確認部会」は、返答のあった世帯情報により要援護者リストアップ用の名簿を作成するとともに、本名簿により支援の必要がある者、また、支援を行う者を確定していく。

○活動の課題や今後の取り組みの予定

【課題となっていること】

豊野町自主防災会においても会員が高齢化してきているため、支援を必要とする者の人数によっては、支援を行う者をどのようにして確保していくかが課題となっている。

【問題解決のための取り組み計画】

要援護者のリストアップにあたっては、対象者宅を訪問し実情を確認したうえで、真に援護が必要な者を確定させていくほか、消防団の協力を得るなどして支援する者の確保も図っていく。